

Acta Paediatrica. 2020 : 109(4) : 764-773

First published: 23 September 2019.doi: 10.1111/apa.15029

ESSENCE-Q obtained in routine Japanese public child health check-ups may be a valuable tool in neurodevelopmental screening

日本の乳幼児健診で使われた ESSENCE-Q は神経発達スクリーニングにおいて有用なツールであるだろう

執筆者

Yuhei Hatakenaka, Masato Maeda, Hitoshi Ninomiya, Koutarou Hachiya, Elisabeth Fernell, Christopher Gillberg

概要

【目的】

私たちの目的は、幼児期の神経発達の診察が必要とされる早期徴候症候群を特定するために開発された質問紙 (ESSENCE-Q) の有効性を評価することだった。

【方法】

2014 年から 2015 年の間に安芸市に在住の 207 名の子どもについて、福祉保健所で行われた 20、40 か月健診において、母親、保健師、心理士らより ESSENCE-Q データを得た。そのデータは小児科医がつけた ESSENCE の診断と照合された。ROC 曲線が作成され、AUC が比較された。感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率が、最適なカットオフ値に基づき計算された。また、臨床的有用率も計算された。

【結果】

20 か月健診で保健師が ESSENCE-Q を使用した場合に、感度と陰性的中率で高い妥当性が認められたが、40 か月健診では認められなかった。心理士が使用した場合にも両方の健診において良好な妥当性が証明されたが、母親が使用した場合では証明されなかった。心理士が使用した両方の健診の結果と保健師が使用した 20 か月健診の結果から、スクリーニングの精度を示唆する高い negative utility indexes が得られた。

【結論】

保健師と心理士が使用した場合の ESSENCE-Q の結果からは、良好な妥当性が示された。臨床的に詳細な神経発達のアセスメントが必要とされる子どもたちを発見するためのツールとしてのこの質問紙の効果は、さらなる研究により確かめられるべきである